

# 小樽後志

小樽支社 〒047-0032  
小樽市稲穂2丁目8番4号  
▽ニュース・話題の提供は  
報道部 0134-22-6171  
FAX21-2120  
otaru@hokkaido-np.co.jp  
▽広告の問い合わせは  
営業部 0134-23-3171  
▽ご購入の申し込みは  
0120-464-104

倶知安支局 〒044-0004  
倶知安町北4条東3丁目  
0136-22-1004 FAX22-4001

余市支局 〒046-0003  
余市町黒川町6丁目25の20  
0135-23-3290 FAX23-2190

岩内支局 〒045-0013  
岩内町高台139の3  
0135-62-0189 FAX62-8280

**かま栄**  
6月の揚げかま  
えびマヨサンド 259円(税込)  
花園店・工場直売店・駅前第一ビル店・サンポート店

## 市の歴史 屋形船から学ぶ 忍路中央小児童

小樽市立忍路中央小(20人、村中幸校長)の児童たちが小樽港内を屋形船で巡り、まちの歴史を学ぶ授業が開かれた。児童たちは船からの景色を眺めながら、港とともに発展した小樽への理解を深めた。

忍路中央小の授業は今年初の初回として16日に行われ、3〜5年生8人が参加。屋形船は約40分かけ港内を巡り、講師役の小樽観光ガイドの理解を深めた。



屋形船で小樽港内を巡り、北防波堤を眺める児童ら

イドクラブ副会長の小山克満さん(76)が、かつて小樽で盛んだったニシン漁や、停泊中の本州と結ぶフェリ

ーなどについて紹介。同港の北防波堤は、火山灰を混ぜたコンクリートブロックを斜めに積んでつくられ、防波堤が波から受ける力をうまく分散していると解説し、「おかげで100年以

【倶知安】町がJR倶知安駅西側の公園内に保存している蒸気機関車(SL)用の転車台をきれいにし、地域住民が地元の鉄道遺産に関心を持つきっかけをつくらうと、倶知安風土館や町民有志が「クリーニング大作戦」を行った。

転車台は大型電動式として1957年に設置され、SLの方向転換に使われた。北海道新幹線の札幌延伸に伴う倶知安新駅の周辺施設の予定地と重なるため、町は撤去・解体を軸に検討。倶知安機関区時代の鉄道遺産の記録保存に向け、今夏にも写真やレーザー技術でデータ化する予定だ。

大作戦は、転車台の手入れが行き届いていなかった状況を改善するため、風土館が初めて企画。11日に行われ、10人ほどが参加した。転車台の円形の底面にたまった落ち葉やごみをスコップなどでかき集め、大型のポリ袋で約30袋分が満杯になった。

## SL 転車台 落ち葉除去 倶知安風土館が「大作戦」



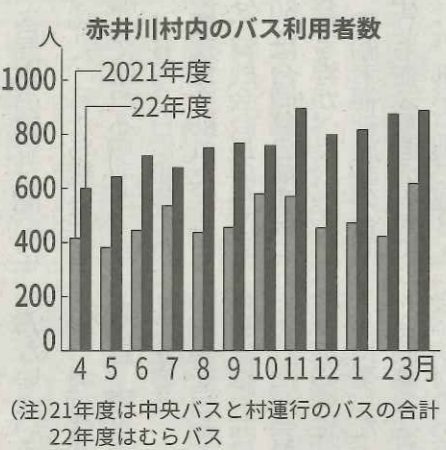
転車台の保存状態を改善するため、大量の落ち葉などを清掃する参加者たち

かつて亡父が機関士で駅の近くに住んでいたという男性(72)は「清掃前はいかがいような状態だったが、きれいになってよかった。鉄道の要衝を支えた転車台に関心を持ってほしい」と話した。風土館の小田桐亮学芸員(33)は「今後も同様の企画を続けたいと考えて、鉄道に詳しい人と地域の人がつながる場となり、歴史を継承できれば」と期待を込めた。(須藤真哉)

# 「むらバス」1年利用好調

### 赤井川昨年度 前年度の1.6倍に

【赤井川】村営「コミュニティバス「むらバス」の昨年4月の運行開始から、1年余りがたった。2022年度の村内のバス利用者数は、北海道中央バスなどが運行していた21年度比1.6倍に増えた。高校生の利用を考慮したダイヤ編成や、余市町内の商業施設への路線延伸で利便性が増し、生徒や買い物客ら村民の利用増につながっている。



## ダイヤ変更や延伸奏功

むらバスは村内とJR余市駅前を結んでいた中央バス赤井川線が、運転手不足や利用客減を理由に昨年3月末に廃止され、代替交通

1日3〜4往復。運賃は全区間利用の場合、一般300円(高校生以下200円)で定期券もある。村内に住む小樽未来創造高3年の秋元美鈴さん(17)はむらバスで余市に向かい、さらに余市から別のバ



赤井川村と余市町を結ぶ村営「コミュニティバス」「むらバス」

スを乗り継いで通学する。1年生だった21年度は、中央バス赤井川線の始発に乗っても午前8時半開始のホームルームに間に合わないため、親が余市まで送迎していた。むらバスは赤井川線より約20分早い午前6時

## 真狩高生と園児 花の苗植え交流

【真狩】真狩高は、村内の認定こども園まっかり保育所で、園児たちと一緒に花の苗を植える交流会を開いた。



真狩高生に教わりながら花の苗を植えるまっかり保育所の園児たち

保育所と高校の連携事業として毎年開催。13日に行われ、同校の2、3年生7人と、同保育所の4歳児クラスの10人が参加した。高校生は、自分たちが3月下旬から育ててきたオレンジと黄色のマリーゴールドの苗計126株を用意し、園児に植え方を優しく指導。園児たちはスコップでプランターの土を掘り、1株ずつ丁寧に花を植えていった。

完成したプランターは同保育所の玄関前に並べた。作業を終えた同保育所の代田鼓哲ちゃん(4)は「楽しかった。簡単だったよ」と笑顔だった。(加藤蓮花)

## 宮西 晋司



大藤 晋司

シーズンは折り返しが間近となりました。「本当に戦えるチームになってきた」という新庄監督の言葉を実感できたセ・パ交流戦の健闘の原動力は12球団で防御率トップの投手陣。その要は、今月2日に38歳となった宮西晋司投手です。今季はチーム2位の23試合に登板し、失点したのは2試合だけで11ホールド。セットアッパーとして十分な働きぶりですが、その数字以上に称賛すべきなのは、肘の痛みに苦しみ、自己最低の成績に終わった昨季を経て、最も難しいこの役目を奪い返したことです。